

第5回瀬戸市 ICT 戦略推進プラン検討委員会 議事録

開催日時	令和3年3月4日（木）午後2時から4時まで				
開催場所	瀬戸市役所東庁舎 1階 104・105 会議室				
出席委員	8名	欠席委員	0名	傍聴者	5名
会議概要	<p>1 開会挨拶 （事務局・情報政策課長） 定刻となりましたので、只今から第5回瀬戸市 ICT 戦略推進プラン検討委員会を始めます。司会進行は私、梶田が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。本日は大変お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。愛知県の緊急事態宣言は解除されたものの、嚴重警戒措置の中での開催となりましたが、みなさんのご意見ご指導をいただければと思います。よろしくお願いいたします。本日の会議につきましては今2名の方が傍聴されておりますのでご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。万が一、この後、傍聴の方が増えましたら部屋を移動することもありますのでお願いします。では初めに安田委員長からご挨拶をいただきたいと思います。</p> <p>（安田委員長） いよいよ、この会議も第5回となりました。本日はパブリックコメントの内容についてと、この計画の最終の検討の議事を進めて参りたいと思います。それでは事務局からパブリックコメント手続実施結果について報告をいただきたいと思います。</p> <p>2 パブリックコメント手続実施結果について （事務局・岡田専門員） プラン案のパブリックコメント手続実施結果について説明します。プラン案の98ページをご覧ください。1の募集期間としましては令和2年12月14日から令和3年1月15日までの約一か月間としました。2の意見提出人数は9人の方、3の意見件数は31件のご意見をいただきました。4の意見への対応としましては、Aの意見を踏まえて案を修正するものが3件です。Bの意見の趣旨や内容を盛り込み済みであり、考え方を説明するものが22件、Cの今後の事業実施の参考とするものが6件、Dのその他（意見として受理するもの）は0件です。</p>				

まず A から説明します。104 ページの意見 No10 のご意見として「P4 の第 2 章のポイントのところの Society5.0 とあります。本案において、この言葉が使われるのは、ここが最初です。P11 で詳しく書かれているのですが、そこを読むまで分らない市民がいることを考えると、欄外にでも、簡単な解説か P11 に記載があることを書いていただけたらと思います。」というご意見をいただきました。それに対する市の考え方として、4 ページを以下のように修正します。脚注として、※2 Society5.0…11 ページの「(2) Society5.0」参照と表記することにしました。A の 2 件目は 107 ページの No15 のご意見として、「とにかく技術やハードウェアという言葉が先行しがちですがとの言葉は、削除してもいいように思いました。言葉の順序を入れ替える等してみました。

(とにかく技術やハードウェアという言葉が先行しがちですが、) 検討委員会では、「瀬戸市・・・」の策定に向け、生活者目線を視点に、ICT 利活用に検討を重ねてきました。ご検討ください。」と頂きました。そこで、43 ページを以下のように修正します。修正後は「とにかく技術やハードウェアという言葉が先行してしまいがちですが、検討委員会では、「瀬戸市 ICT 戦略推進プラン・官民データ活用推進計画」を策定するうえで生活者目線を大切な視点として ICT の利活用の検討と重ねてきました。」としました。ご意見に沿って修正しました。そして A の 3 件目ですが、No16 のご意見として、「愛知県立瀬戸つばき特別支援学校が瀬戸市に開校したことは、瀬戸市(市民)にとって大きな出来事ですし、瀬戸市の諸政策を考えるうえで忘れてはならないことだと思います。しかし、瀬戸つばき特別支援学校の開校を瀬戸市の取り組みとすることや、瀬戸市ならではの取り組みとしてにじの丘学園の開校と併記することに問題はないのでしょうか。」というご意見を頂いております。これに対して市の考え方としまして、以下のように修正しております。瀬戸のまちの特長として小中一貫校「にじの丘学園」や「愛知県立瀬戸つばき特別支援学校」の開校をはじめ、・・・ということで決して瀬戸市役所のことを言っているのではなく愛知県のことを言っているわけではなく、瀬戸のまちの特長として修正しました。以上が A の 3 件です。

それでは C の 6 件、今後の事業実施の参考とするものを説明します。C の 1 件目は 98 ページの意見 No1 をご覧ください。ご意見として、「せとまちナビがもっと多くの人に知ってもらえると良いと思います。広報せとの表紙に毎回大きめに掲載するとか、小中学生に配布されるタブレットにインストールしておくのも良いと思います。現在子育て

てのタブから開ける相談窓口の案内は、小・中・高校生も開きやすいページからリンクするべきです。ゴミの通知はありがたい機能ですが、「びん・缶・ペットボトル」「紙類・古布」「燃えるごみ」から通知してほしいものを選択できると良いと思います。」ということで本委員会においてもせとまちナビについてはたくさんのご意見、ご助言を頂きました。市の考え方としましては、第5章 基本目標とめざす姿 3. ICT 基盤の強化において、スマートフォン用アプリせとまちナビは、子どもから大人まで幅広い年齢層に使ってもらえる、市民の日常生活に必要なアプリをめざし、機能改修を進めていくこととしています。いただいたご意見は、今後の機能強化の参考とさせていただきます。Cの2つ目が意見No2のご意見としまして、「若年層へのICT教育についてSeto CG Kid's ProgramやAdvanceなど、これからの瀬戸を担う若者向けにプログラミング教育が声高に言われる以前から取り組まれていることについて有意義であり、これからも継続すべき事業であると感じております。しかしながら20頁に記載のある通り、大学進学や就職に伴う年齢層の流出が多く、また、21頁にあるように瀬戸市に住み続けることを希望する人の割合が高くない等のことが明らかになっていることから、せっかく育てた人材が瀬戸市に還元していない状況があるのではと思われます。市内の大学やICT以外の施策と連携して、進学時の瀬戸離れの抑制などの取り組みや、ICTスキルを活かした就労機会の増大などに取り組むことも、取り組むべき施策なのではと感じました。」というご意見を頂きました。それに対して市の考え方を書いております。第5章 基本目標とめざす姿 1. まちの活性化において、Seto CG Kid's Program、Advanceは、新たなステージに向けて、デジタルコンテンツ業界で活躍するOB・OGや小・中学校・高校・専門学校、大学の関係者、瀬戸ロータリークラブ等の団体と連携し、高度ICT人材の育成に取組、市内外の子どもたちがものづくりのまち瀬戸を訪れたい、将来瀬戸に住んでみたいと思ってもらえる仕組みを構築していくこととしています。また、今後の成長が期待される新産業分野のソフトウェア業、情報サービス業、デジタルコンテンツ業等の企業誘致を進め、付加価値の高い産業の育成及び地域の雇用を図るため、IT・クリエイティブ企業等進出促進奨励金を、国や県等の関係機関と連携しながら、一層の周知を図り、制度の効果的な運用を行っていくこととしています。いただいたご意見は、今後の事業実施の参考とさせていただきます。Cの3件目は100ページの意見No5の「デジタルリサーチパークセンターについて、せっかくのいい建物があるの

ですが、最寄り駅から遠いです。徒歩だと30分弱かかり、車がない人ではほぼ使えません。また、徒歩の場合は、歩道が途中からなくなる、ダンプカーがたくさん行き来するので、あまり安心して歩けません。もっと行きやすい環境を整備していただければありがたいです。いろいろなイベントをやっているようですが、認知度が低いみたいです。利便性を上げて、多くの人に知ってもらい、もっと活用されるといいと思います。」市の考え方として、第3章 瀬戸市の現状と課題 2. これまでの取組と評価 ●DRPC 市民向け IT 講座 委員評価欄において委員からも年間40講座と大変な数を開講されている現状をもっとアピールしてもよいのではないかとご意見を頂いております。第5章 基本目標とめざす姿 1. まちの活性化において、コロナ禍における新しい生活様式に対応し、瀬戸で暮らす人々のICT活用を支援するために、DRPCをコロナ禍におけるICT支援拠点と位置付け、ICT活用講座や相談を実施し、支援体制を検討していくこととしています。いただいたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただきます。Cの4件目、108ページの意見No18のご意見としまして、「イベントや企画などさまざまな取組の認知度が低いように感じています。計画もそうですが、素晴らしい取組が多いのに大変勿体ないです。市内はもちろん、近隣市町村他県など、もっと広く周知できるものはPRして頂きたいです。」これに対して市の考え方として、委員からもPR不足をご指摘頂いております。いただいたご意見は今後の事業実施の参考とさせていただきます。Cの5件目、111ページ意見No25のご意見として、「本計画ですが、これからの時代必要なものだと思いますので是非推進頂けたらと思います。取組自体の認知度がイマイチかなと思います。楽しい企画などで認知向上を継続頂けたらと思います。」こちらもPR不足をご指摘頂いておりますので、今後の事業実施の参考とさせていただきます。それでは最後になります。Cの6件目、113ページの意見No31のご意見です。「ICTサービスリリース後は、多くの市民が利活用できるよう、PR活動や利用方法を学習する場も併せて計画していただきたいです。できれば、サービス開発の段階から市民の意見が反映されるとよいですね。」とうご意見を頂いております。前段の部分は先ほど同様PR不足のご指摘を頂いております。今後の事業実施の参考にさせていただきます。下段ですが、第3章 瀬戸市の現状と課題 2. これまでの取組と評価 (4) スマートフォン用アプリせとまちナビにおいて、「2016(平成28)年度に学識経験者、IT技術者、公募市民で組織した瀬戸市スマートフォン用アプリケーションせとまちナビ開発検討会議を

設立し、地域課題の解決や市民生活の向上を図るため、委員の皆さんと意見を出し合いながら一緒に作った市民参加型アプリです。引き続き、市民の意見が開発段階から反映されるように進めていきます。」としております。パブリックコメント手続実施結果については以上です。

(安田委員長)

ありがとうございました。ご説明いただきました。Bは説明しなくてよかったですか。

(事務局・岡田専門員)

Bは内容がプランに既に記載されているものです。わかりづらい点もあったかと思しますので、プランの内容を丁寧に説明したものです。

(安田委員長)

自治体向けのパブリックコメントで31件の意見は大変多く頂けたというのが率直な感想です。なおかつ非常に有益なコメント、一緒になってこの計画を良くしていこうというコメントが頂けたと思います。委員の皆様からもパブリックコメントについて率直なご感想等を頂きたいと思います。まず、後藤先生からお願いします。

(後藤副委員長)

かなり有益なパブリックコメントが多かったと思います。ポイントとして印象に残ったのはPRが不足しているのがやはり市民の意見として多かったことです。せとまちナビについても市民参加型アプリと説明があるが、開発の段階から市民が関わっていたことが伝わっていないのではないかと思います。情報の発信の仕方も、より具体化して分かり易く表現をして市民に伝えるというプロセスを入れていかないとこれからは伝わり難いと思います。ITという手段があるからこそ、そういうことをしていかないと他に情報が多すぎるので逆に伝わり難い時代になっていると思います。そういうところを考えていく、いきっかけをこのパブリックコメントから与えてもらったと思います。

(安田委員長)

ありがとうございます。事務局からいかがでしょうか。

(事務局・岡田専門員)

後藤先生からご指摘頂いた市民の皆様と一緒に開発をしていることをきちんと情報発信していくところですが、来年度からデジタルリサーチパークセンターで公募して市民の方と一緒にユーチューブをあげていく事業を今、企画しております。市民の方と一緒にやっているところを PR していくことをしっかり来年度やっていきたいと思えます。

(安田委員長)

今のユーチューブの話はとてもいいと思います。今後、デジタルの媒体を使って市民と一緒にやっていくことを考えていくことが重要だと思います。

(濱村委員)

感想として建設的な意見がでているところは非常によいと思えます。2点ほど申し上げます。まず1点目は後藤委員も言われていた PR のところ。2点目は進学時の瀬戸離れの抑制についてコメントがあって、これは非常に重要なポイントだと思います。PR と重なる部分もあるかも知れませんが、今の IT の時代に、一か所に居続けてというのはそもそも難しいのではないかと思います。抑え込もうとすると反発するパワーが強くなるのでより外に出て行ってしまうと会社でもよくあるパターンです。最近、オープンであることで逆に留まろうとすることは事例を含めてよくあると思えます。ぜひ瀬戸市に閉じず姉妹都市も結ばれていますのでグローバルにオープンにしてもよいのではないかと思います。理由としては市民の認知度向上につながると思うのですが、やはり内部の情報発信は限界があると思えます。外からの情報の方が話題になりやすいと思えます。オープンにして外で活躍できる人材をどんどん作っていくというポリシーのもとで、活躍している人たちが瀬戸に帰って来ようとか、自分の故郷のために何かやりたいというパワーを利用して瀬戸の魅力を PR していく。そんなサイクルができるといいと思えます。

(安田委員長)

スピードの岩木さんの例もあり、その通りだと私も思います。事務局はいかがでしょうか。

(事務局・岡田専門員)

来年度から Seto CG Kid's Advance は市内のみの枠組みを外そうと思っております。市外の方も Advance を体験して頂くことでステップアップできるのではないかと思います。

(事務局・情報政策課長)

これまでは市内在住、在学でやってきたがこれからは逆に広くやっていくつもりです。今年はコロナ禍もあり、オンラインで講座もやったぐらいで、全国どこでも広く知ってもらって瀬戸市がこんなことをやっていると知ってもらう機会をつくり、逆に講師は瀬戸市内の企業にお願いするとか、来年度枠組みを広げて、やっていくつもりです。

(安田委員長)

素晴らしいです。そういうノウハウを持っているのが瀬戸市の強みだと思います。それでは前田委員お願いします。

(前田委員)

非常に分かり易い素敵な計画ができたと思っています。パブリックコメントが非常に前向きです。ほとんど後ろ向きな意見がなく具体的なご意見が多かったと思います。その中のコメントでやはりPR不足が私自身も気になるところです。やはり目立たなくてはいけないと思います。メディアを使うとか有名人と一緒にしたイベントをできないかと思いました。いろいろなところとコラボしてPRをやるのがいいのではないかと思いました。例えばICTの日を作り市役所だけではなく、例えば市内の小学校でもその日に一斉に小学生とともに市のICTを考えるイベントを開くとか、同じように老人クラブの高齢者もその中に入っていただいて、子どもと高齢者が考えるICTの未来みたいなイベントを作るとかして、イベントに手を借りていろいろな年代の方々、あるいは市民の方だけではなく愛知県の他の市の方とか、あるいは姉妹都市の方とかもネットでつないでそのイベントと一緒に参加していただくようなことをやればいいのかと思います。可能であればそのイベントの中でアイデアソンとかハッカソンとかやって、そこでいいアイデアがでたら賞金とか賞品をだすことができるとより一層PRが広がりのあるものになるし皆様の意識の中に根付くと思います。今から難しいかもしれませんが何かそういう企画を進めて頂ければよいと思いました。

(安田委員長)

なにか特徴的なイベントをやったらいいのではないかというご意見を頂きました。ありがとうございます。事務局からいかがでしょうか。

(事務局・情報政策課長)

他市町への波及という面では、今年特にコロナ禍の影響もあり、プログラムキャンプに子どもたちを集めてやっているところにオンラインで参加してもらった子どもたちがいたり、九州の大学生がオンラインで瀬戸の子どもたちやオンラインで参加の子どもたちを教えてくれたりというような講座をやることができました。今後もこれを続けていくことができれば瀬戸市の知名度アップになると思います。

(前田委員)

できれば、イベントは決めた日に大々的にやった方が、インパクトがあるのではないかと思います。大変なのは重々承知ですが、そういう方向でもぜひ検討して頂きたいと思います。

(事務局・情報政策課長)

今までですと、デジタルリサーチパークセンターでデジタルまつりで、2000から3000人規模で実施をするとか、3月には夢の未来創造ラボとして、近隣の大学にお手伝い頂いて子どもたちに最新技術に触れてもらうようなイベントを今年度はできませんでしたが、それをもっと広げるのか、もっと交通の便の良い広いところで大々的に集めてデジタルを広めるのも一つかもしれないので、デジタルまつりや未来創造ラボの今後の在り方を、これを機に考えていきたいと思えます。

(安田委員長)

具体的な事例をお話頂きましたけれども、集中的にイベントを行うというのものもあるし、そうでない場合はそれぞれのイベントが瀬戸市全体のICTの推進に紐づいているのが分かるような広報の仕方をお考えいただくとよいと思います。では続きまして羽根委員をお願いします。

(羽根委員)

意見が多くてよかったと思います。改めて全体を読んでみて既存のせとまちナビの改修は必須だと感じました。先ほどから話がでている

PR するにもせとまちナビは使えますし、イベントの告知にも使えます。資料の 8 ページのところを見て頂くと一目瞭然、急速なスマートフォンの普及がわかります。この市民が持っているスマートフォンを活用する以外ないと思います。これは絶対だと思います。例えば 55 ページの事業計画のオレンジのところとか 83 ページ下の方に AI チャットポットと連携をすると計画もあるようですので、これも全市民が活用促進できるように前向きに進めて頂きたいと思います。せとまちナビを成長させるいいチャンスが今やってきていると感じています。やはり緊急時に役立つ情報を載せていくと有効に使っていただけたと思います。阪神大震災の時にはラジオもテレビも繋がらなくて大変混乱したと思いますが 10 年前の東日本大震災の時には既にスマートフォンがありました。SNS もありました。それでいろいろな情報をスマートフォンから取ることができたと思います。そういったことを踏まえてスマートフォンを市民が活用できるように進めて頂ければと思います。また今、緊急地震速報も使えることも市民の方はご存じだと思いますが、止めてしまっている場合も中にはあります。また、安否確認にスマートフォンも使える。災害時にスマートフォンが使えることをまず市民のみなさんに伝えてください。特に高齢者に対しても、せとまちナビをアピールしながらスマートフォンの活用を進めていければと思います。あと、市民の行政手続きがスムーズになるようにオペレーションの最適化は早急に必要だと思います。

(安田委員長)

ありがとうございました。2 点お話がありました。スマートフォンがこれだけ普及しているのだからスマートフォンの活用をより積極的にやってほしい。もう一つは DX です。国からも支持がでていると思いますのでデジタルトランスフォーメーションについては我々も注視して応援していきたいと思いますのでよろしくお願いします。事務局から今のご意見についてございますか。

(事務局・情報政策課長)

スマートフォンの普及というのは全国的にみても高齢者でも 7 割近いというのがありまして、最近よく耳にするのがデジタルデバイスについてです。現在、デジタルリサーチパークセンターで行っているスマートフォンの講座は高齢者に人気で好評を頂いていますが、もっと広げていかなければならないと感じています。そんな中で、地区の幡山公

民館の方が公民館に Wi-Fi を整備したがどう活用していいか分からないというこうとでデジタルリサーチパークセンターの所長に講座とかできないかと相談がありました。できれば地域の住民向けにも講座を開きたいとお話があって意見交換をしました。役員の方々もやる気満々でしたので早速とりかかりましょうということになりました。地域貢献という形で公民館に出向いてもいいし、デジタルリサーチパークセンターに来て頂いてもいいと説明しました。まず役員の方とどんなことでお困りなのか、どんなことをお教えすればいいのかということの意見交換をしましょうとなりました。それが進んだ後、役員の方も覚えて頂いたら、役員の方がサポーターになって地域の住民に教えて頂ける。そういうようなモデルが成功事例になれば地域の人を育てるモデルとしてやりたいという話をしていたところです。地域の中で課題解決ができる形で進めていこうと思います。

(羽根委員)

すごくいいことだと思います。地域の方を活用して楽しければいろいろな人に広がっていくと思うし、先ほどの PR 不足の件もその方が SNS とかで発信して頂くとか市民のスマートフォンを活用するという今の話はいいと思います。

(事務局・情報政策課長)

講座も地域でやれるようになると瀬戸市全体の ICT のリテラシーが上がると思うので、そういうサポートがデジタルリサーチパークセンターでできればと思っています。せとまちナビに関してはもっと機能強化できればと我々も思っておりまして高齢者も使いやすいようなものにしていきたいと考えています。

(安田委員長)

地域コミュニティが地域のデジタルの水準を上げていくという取組は、私も前回お話をしたかもしれませんが今年度名古屋のある区で取組んでおりますので瀬戸市にも共有したいと思っております。地域のみなさんが地域のみなさんを助けていく体制しかないのではないかと考えています。ぜひ、これは盛り上げて頂きたいと思っております。では続きまして林委員をお願いします。

(林委員)

たくさんのパブリックコメント、いいご意見を頂けたと思います。まずパブリックコメントの中から 6 番目の方のユニバーサルデザインへのご意見ですが、この方が言っているのはユニバーサルデザインフォントのことだけではなく、この計画自体がユニバーサルデザインの理念に沿ったものであってほしいと誰もが使いやすいものであってほしいという思いがあるのだなということを感じました。そういう意味でもフォントはユニバーサルデザインになっていますが、たとえばカラー的にユニバーサルデザインカラーという点で考えると、たとえば 7 ページとかの濃い青のところは白抜きになっているのですが、32 ページとかだともう少し濃くして青のところは白抜きにした方がいいのかなとかユニバーサルデザインという点では思いました。それに付随して 7 番ですが、みんなというところにこの方は重きを置いて、みんなにとって使いやすいとか、みんなにとってというのはここにでくる聴覚障害で困難な人だけではなく知的障害の方たちも含まれると思うので、そういう意味ではもし概要版とか作るのであれば、そこに全部ルビをふるとか分かり易い表現をするということが必要だなということを感じました。あと、読み返してみても気づいたのですが、50 ページの「NET119 緊急通報システム」というところに社会福祉協議会に登録されているろうあ者であるのですが、「瀬戸市聴覚障害協会に登録されている」の間違いではないかと思います。あと、ろうあ者というと難聴の方が入らなくなってしまう。総務省の「NET119 緊急通報システム」を見ると聴覚・言語機能障害者となっているので難聴の方も入れた方がよいのではないかなと思います。

(事務局・岡田専門員)

50 ページの「NET119 緊急通報システム」に社会福祉協議会に登録されているろうあ者であるところが「瀬戸市聴覚障害者協会に登録されている」の間違いではないかという点と、ろうあ者を対象にということを難聴者、ろうあ者を対象にするという点について確認させていただきます。

(林委員)

48 ページですが、地域とともにある学校づくりというのは今回あえて抜いたのですか。「GIGA スクール推進」のところに「地域ボランティアの方にサポートしていただく」というところが前は「地域とともに

ある学校づくり」という言葉が入っていたのですが・・・

(事務局・岡田専門員)

修正しているつもりはなかったのですが、見直してみます。

(寺田委員)

教育的には「地域とともにある学校づくり」は常に出していることですので関連性があるのなら出していくべきだと思います。

(林委員)

いいものができていかに広げていくかが大事だと思います。ICTをもっと身近に使えたらすごく便利だということをいかに広めていくかが大事だと思います。eスポーツも今注目されていて愛知県も協会が立ち上がりましたが、知的障害の子どもとか車いすの子どもとか更に広げて引きこもりの子とかも参加していけると思うのでICTの未来には期待しています。スマートフォンも使っている方は多いと思うのでスマートフォンの便利さの延長線上にそういうサービスがあることを知っていただけたらいいと思います。

(安田委員長)

ありがとうございました。ユニバーサルデザインの話からかなり広範囲にわたって二つ目の議題のお話まで今いただいていたと思います。あったらいい文言についても事務局に確認していただいて復活したらよいと思います。

(事務局・情報政策課長)

理解をひろげることは大事だと思います。未来創造ラボもいろいろな方にご協力をいただいて最新の研究しているものを持ってきていただいて子どもたちが触れることができる。昨年、今年とできなかったが継続していきたいと思っています。また、子どもたちでなく、一般の人もこれからデジタル社会になっていくなかで最新の技術に触れて知っていただきたいと思っており、イベントの見直しを進めていきたいと考えております。

(安田委員長)

よろしくをお願いします。では寺田委員をお願いします。

(寺田委員)

パブリックコメントでいただいた意見はこの委員会の第1回から第4回で議論してきた話の部分がたくさん入っているのでここだけの話ではなく本当に参考にして全市民に共有できる大きなことだと思います。わかりやすくした分、いろいろなことが出ていて先ほどから話がでていせとまちナビにしても、特別支援学級の子どものためのアプリがあって、防災のいろいろなアプリがあって、また別でいろいろなアプリがあってたくさんあるのは不便で、やはりせとまちナビに一元化するべきだと思います。にじの丘学園にはミマモルメというアプリをみな入れているが、瀬戸市の他の学校は入れてなくてPTA主導で別のアプリを入れているとか、有料にしたとたんに登録数が減ってしまう問題があって、せとまちナビを成長させるには瀬戸市民であれば使わざるを得ない環境になるとよいのではないかと思います。そのためにせとまちナビを拡充して一元化していくといいと思います。今はスマートフォンを持っている世代が多いということで、先ほどデジタルリサーチパークセンターでいろいろな講座を用意するというお話がありそれは大事なことだと思いましたが、スマートフォンがその場ですぐわからないとなると諦めてしまうこともあると思うので、それに対応する窓口があると市民の持っている問題点も抽出し易いと思いました。あと、さきほどから出ているPR不足の話ですと、定例の教育委員会に出席していますと、瀬戸市の後援だとか瀬戸市教育委員会の後援を依頼されて承諾しています。今、コロナ禍で半分だとしてもそういうイベントがたくさんあります。それは全市が対象ですが、開催の結果報告をみると百人にも満たない参加者だったりして、せっかくいい事業をやって後援をしても情報が広く行き渡っていないのでやはり団体も行政も含めてうまく情報の発信できるようなものにしていくべきだと思いますし、若い人の力を借りて機能を成長させていくことが必要だと思います。あと、十代二十代が市外に出て行ってしまう件ですが、それはそういうものなので外に出て行って見聞を広めていってそれがフィードバックされることの方が大事だと思いますし、それで十代二十代が出ていくのであれば、瀬戸市外の人に入ってきてもらえるような取組をすることが必要だと思います。他の市町も出て行ってしまうと言っているの、その人たちを瀬戸市はいろいろコンテンツがあるので逆に取り込むこととか、アニメのロケーションを提供すれば聖地として若い人たちはハッシュタグでどんどん発信してくれるのでおのずとPRになっていくと思います。シンプルにそういうことをやってい

くと広がっていくのではないかと思いました。

(安田委員長)

非常に多面的なご意見をいただいたと思いますけども事務局からいかがでしょうか。

(事務局・情報政策課長)

いかに瀬戸市の魅力をあげるか。当然努力はしていますが、それを確かに知っていただかなければいけないので、そういったものを現在のICTの仕組みを使って瀬戸市外にも魅力を発信できるように仕掛けを作っていくことがこれから必要と考えております。講座をやるにしても外と連携してつないでいくとか、イベントについてもそういった考え方もって、いかに魅力的なものを作っているのかを外に知ってもらえるような一緒に考えたうえでのイベントや講座を意識しながらやっていくことが大事なのかなと思いますのでそういう形で進めていければと思います。

(安田委員長)

そうですね。みなさんのお話を伺っているとイベントとかアプリとかいろいろあるのだけれどもこれがバラバラになっているのもう少しまとめるような、瀬戸市のICTがこうやっているのだということを外にアピールできるような仕掛けを作らなければいけないと思いますし、それから外に行った人を引き留めるだけではなく、もっと違うやり方で瀬戸市の魅力をアピールして引き込む必要があるよねという話だったと思います。では戸田委員お願いします。

(戸田委員)

意見の5番にあったデジタルリサーチパークセンターのIT講座について、せっかくいい建物があるのに駅から遠いからなかなか行けないというところですが、確かに電車で行くのは確かに不便なので講座やイベントの時だけでも送迎のバスがあると車を利用しない方でも参加しやすくなると思いました。送迎のバスがありますと一回出してみても申込がたくさんあるようであれば継続して送迎のバスを使えばいいと思いますしそれでなければ今まで通りでいいと思いました。

(安田委員長)

事務局から今のご提案に対してどうですか。

(事務局・岡田専門員)

コミュニティバスが4月からデジタルリサーチパークセンターに入ることになりまして、先日、地域公共交通会議で承認をされたと伺っております。瀬戸口駅が最寄りの駅になると思います。瀬戸市のコミュニティバスはジャンボタクシーサイズで高齢者の利用が基本とのことですが地元の要請と聞いております。

(事務局・情報政策課長)

本数としては少なめです。

(安田委員長)

でも先ほど戸田委員が言われたようにやってみてどうかだと思えますのでそれをフィードバックしていけばいいと思います。

(事務局・情報政策課長)

少ない便数の中でバスが来る時に合わせて高齢者の講座をやるとかもテスト的にやってもいいかなと思っています。

(安田委員長)

ぜひよろしくをお願いします。それでは議題1のコメントは一巡したわけですが、議題2の方のご意見もかなりみなさんいただいたと思いますが、議題1につきまして言い残したことがある方がいらっしゃればと思いますが、よろしいでしょうか。議題1については大丈夫ですか。それでは一度休憩します。

3 瀬戸市 ICT 戦略推進プラン・官民データ活用推進計画完成版について

(安田委員長)

再開します。では、二つ目の議題です。瀬戸市 ICT 戦略推進プラン・官民データ活用推進計画完成版についてということで事務局からご説明をよろしくをお願いします。

(事務局・岡田専門員)

まず、プランの表紙をご覧くださいなのですが、安田先生からアド

バイスをいただいたイラストを何とか形にしてみました。こちらのイラストは、46ページの第5章の基本目標とめざす姿のリード文のところに非常に重要な言葉「デジタル社会を生き抜くための人づくり、生活者目線での暮らしの質の向上、せともので知られるものづくり文化の発信等において、ICTの利活用とICT基盤の整備を進め、住みたいまちの実現をめざす。」ということで、このリード文を絵であらわしたのが表紙のデザインです。透明のオレンジ色で、アルファベットでSETOをデザインしております。リード文の「デジタル社会を生き抜くための人づくり」がアルファベットのTで子どもたちがタブレットでIT講座を受講しているデザインです。「生活者目線での暮らしの質の向上」がアルファベットのSで子どもから高齢者までスマートフォン・タブレットを使っているのとその上にせとまちナビの画面を置いております。「せともので知られるものづくり文化の発信」はアルファベットのEでろくろを回す作り手の様子をオンラインでライブ配信しているというところでは暖色系を増やした方がいいのではないかというご意見をいただいておりますのでデザインの方は暖色系でやりました。次に1ページ目をご覧ください。こちらイラストを追加しています。こちらの方も第1章のはじめにのリード文「瀬戸も少子高齢化が進み・・・」といったところを絵であらわしております。高齢者の方が約3割なのでベンチに高齢者の方が3人座っています。年少人口が約1割なので子どもが1人風船を持っているのと、生産年齢人口に関しては大人の方が6人登場させたデザインでみなさんスマートフォン・タブレットを持っています。下の芝生はアルファベットのICTをデザインしました。こちらの方も暖色系でデザインをしています。

次に修正した部分ですが、34ページをご覧ください。こちらの方、後藤先生からもご指摘をいただいております、せとまちナビのアイコンを入れてよりここでもPRできるようにしています。続いて40ページですが、マイナンバーの普及促進の方もマイナちゃんとかマイキーくんのイラストを入れてみなさんに見ていただけるように工夫をしました。46ページをご覧ください。第5章の基本目標と目指す姿ですが、前回の検討委員会で委員の皆様からこのページに多くのご意見をいただきました。ポイントのリード文も分かりづらいのではないかとご指摘を受けましたので、とても重要なリード文だと思いましたので再考してこの部分は修正をしました。また前回の検討委員会で安田先生からもご指摘をいただいておりますがこのページでいかに7つの課

題がでてきたかをもう一度復習できる方がいいのではないかとご指摘をいただきましたのでこのページを A3 の横にしました。それで左に現状を書きました。ここでこれを見るだけで復習ができる。なぜこういう課題が生まれてきたかということがわかるように結びました。あと、課題のところですが、課題と基本目標を結びつけている矢印のところに課題のところに色分けを入れさせていただきました。これも委員のみなさんからご意見をいただきましたので特に課題のところに 1 番、2 番と入れることによって、その繋がりが分かり易くなるようにしておきました。あと、基本目標のまちの活性化と ICT 基盤の強化の色を入れ替えた方がいいとアドバイスをいただいております。それでまちの活性化をピンク色に ICT 基盤の強化を緑色に替えました。これによって人が深く関わることを暖色系に統一したということです。48 ページをご覧くださいませでしょうか。前回の検討委員会で文章ばかりで少しインパクトがないというご意見をいただきましたので、事業のところにそれぞれのカラーの色をつけております。これで少しメリハリをつけています。あとアイコンですが、まちの活性化の方にタブレットの Wi-Fi のアイコンを入れたり、生活の利便性の向上のところにスマートフォンのアイコンを入れました。あと、48 ページの ICT 人材の育成で ICT の人材育成についてはハイレベルな ICT 能力を身につけた人材といったところが、国がより高度 ICT 人材という言葉を使っているご意見をいただきました。そこで上から 4 行目のところ瀬戸市も高度 ICT 人材の育成に取り組んでいくところを文章として追加しました。56 ページをご覧ください。前回の検討委員会で表の色を基本目標の色に変更した方がいいのではないかとということでまちの活性化の方はピンクの表に、生活の利便性の向上はオレンジの表に、ICT 基盤の方は緑の表に、スマート自治体の方は青の表にと、カラーリングをしっかりと統一した形に修正をさせていただきました。

検討委員会の方でリード文、色使いとかデザインとか様々ご助言をいただきました。これを市民のみなさんに見てもらう前に市の職員がどれだけ理解ができるか職員にアンケートをとりました。今回、サンプルとして 197 人の職員がアンケートに答えてくれました。20 代から 60 代まで幅広くアンケートに答えてくれました。まず、各章のあたりに記載したリード文の内容は分かり易かったですかという質問をしました。わかり易かった 21 パーセント、まあ分かり易かったが 60 パーセント、やや分かりにくかったが 16 パーセント、分かりにくかったが 3 パーセントということで分かり易かった、まあ分かり易かったが 80

パーセントを超える結果となりました。これも検討委員会のみなさんのご助言のおかげだと思います。グラフ、文章は読みやすいデザインですかという問いに対して読みやすかった 20 パーセント、まあ読みやすかった 60 パーセント、やや読み難かったが 17 パーセント、読みにくかったが 3 パーセントということでこちらの方も色使い、デザインに関しては 80 パーセントの職員が読みやすかったという結果になりました。今回、7つの課題があります。日々の業務の中で職員が感じている課題はありますか。といったところなのですが、1の人口の減少、少子高齢化への対応というのがもっとも高い 21 パーセント、2から7の課題に関してはほぼ同じような割合という結果でした。あと、各課から様々な事業を提案してもらったというところもあります。そういったところで職員が感じている課題を解決して持続可能なまちの実現に向けて ICT の活用が必要を感じましたかといったところ、一つ目の大いに活用したいしたいが 34 パーセント、ある程度活用したいが 51 パーセント、少しだけ活用したいが 12 パーセント、活用しないが 3 パーセントということで 85 パーセントの職員が ICT を活用しないとこれから自分たちの仕事が回らなくなっていくといった意識が表れている結果になったと思います。プラン自体が 5 年先をみておりますが、問 6 で 5 年先にもっと暮らしやすいまちになるためにプラン第 5 章の施策で優先すべきものはなんですかといったところでやはり 2 の生活利便性の向上といったところが 33 パーセント、スマート自治体の実現が 2 番目に高い結果になっております。プランの 46 ページを見ていただくと分かり易いと思うのですが、このプランの施策で 2 の(a)子ども・子育てサービスの推進が 16 パーセントでもっとも高い結果になっております。あと、4 の(a)ということで業務の効率化が 2 番目に高い結果になっております。プランにも書きましたが今年、RPA の操作体験会並びに RPA の導入実証結果報告会というものを職員向けにやりました。11 課 36 名の職員が自ら手を挙げて RPA の体験会に参加してくれました。この 1 年間、ICT に対して職員としては非常に意識を高く持てたというところがアンケートの結果にもでてきたと思っています。また、このアンケートについては事務局の方で更に分析してみなさんにお伝えできたらと思っています。

(安田委員長)

ありがとうございました。こういった計画案に対して職員のみなさんのアンケートを取られたというのは素晴らしいと思いました。我々

が作ってきたものに対して 8 割の方が概ね良いと言っていた。そうでない 2 割の方がどういう理由かまた聞かせていただきたいと思っています。職員の 85 パーセントの方が ICT の活用をしていきたいと前向きなご意見をお持ちだということは瀬戸市役所としてはたのしみだと思えますし、我々、この計画書を作らせていただいたものとしては大変心強く今のアンケートを見させていただきました。これから報告書につまましてみなさんから自由にご意見をいただきたいと思っていますけれども、やはり 46 ページのところがとてもよくまとめていただいたと大変私もうれしく思っています。全体的に色だとか課題感、解決方法に向けての計画の全体像が 46 ページをみればおおよそ分かるといういい形にまとめていただいたと思います。イラストにつきましても大変ご苦労されたと思いますが、かわいらしい、大変意味のあるイラストを作ってください感謝申し上げます。それではみなさんからご自由に忌憚のないご意見をいただければと思います。では後藤先生からお願いします。

(後藤副委員長)

このように素晴らしい計画書に仕上げてください本当にありがとうございました。これまで言ったいろいろな意見がきちんと盛り込まれています。色使いひとつにしても派手さがなくても自然にすっと入ってくるそういうものになったところが一番大きなことではないかと思えます。おそらくそれが伝わった結果が今のアンケートの結果でも表れていると思いますしパブリックコメントの方にも表れていると思います。同時にこれはあくまでスタートなのだと思うので、そこから具体的にどういうふうに行うか、これからアイデアを出しながら動いていくというその部分を市としてもぜひ頑張ってやっていただきたいです。先程から話に出ているせとまちナビに関しても、立ち上げに参加させていただいた者としてある種の責任を感じながら何か人々にとっていいものになっていけばと思っています。一つの鍵となるツールであることはおそらく間違いないのではと思いますので、いかに市民の生活の一部になっていくかという部分を引き続き検討してアイデアを出しながら動いていかなければいけないという気持ちに私もさせていただきました。

(安田委員長)

ありがとうございました。今、後藤先生が言われたようにこの計画を

ベースにして、これから市民のみなさんも含めてどういうふうに進めていくのかということをちゃんと見守れるような、また意見が出せるようなそういう体制をまた作っていかねばいけないと思いますし、46 ページの図が市民のみなさんに身近になるような、先程の PR の話にもつながるかもしれませんがそんなこともお考えいただけるといいと思います。

(濱村委員)

この計画はこれからオープンになって策定しましたということのひとつの役目を終えると思いますが、前に話が出ていたように育てていかなければいけないというのが次の活動だと思います。非常に難しいことだと思います。ICT のデータ活用が出来たか出来ていないかを測るのはすごく難しいと思います。これは我々の領域的には日本各地で行われているのですが、中間 KPI のようなゴールに対してこれといった指標でみていこうというようものが、しっかり設計されていると、シンプルでないとだめですが、しっかり設計されていると A と B と C は 80 まできているので ICT の活用という意味ではここまで来ていますというのがうまく示していると自治体様としても私たちの ICT の活用でここまで来ていることを言わずも、難しい言葉でプレゼンテーションしなくても数字でパッと見れば分かるというような、こんなようなものが次に必要になると思いますし、安田委員長のお言葉を借りると 46 ページがその項目のひとつになってこのページがデジタルになってホームページにでたときに今ここまで来ていますみたいなものができるとそれがひとつのみんなのバロメーターになるようなそんな進め方ができるとそれこそデジタルトランスフォーメーションというような位置づけになってくると感じました。

(安田委員長)

ありがとうございました。やはりステークホルダーのみなさんがこの計画の進捗が逐一見られるような体制があるといいと思います。それを見ながら、微調整しながら育てていくということが大事だと思います。

(濱村委員)

役割を分担して例えば A の原課の方はこの 4 番目が役割担当ですし B の原課の方は 2 番目が担当ですと細分化して活動を進めていくと

と思いますが、自分たちの原課が携わっているのがこのページでいうと2番目のここだからこの数字が上がっていくのはいいねというような他も上がって来たなとかこんなこともみえてくると非常にアクティブな活動になってくると思います。

(安田委員長)

お互いにいい意味で競争して、いいところは市長からお言葉をもらえるとかなんなことがあってもいいかもしれませんね。ありがとうございました。

(前田委員)

計画はいいものができたと思っています。ただし計画というのはPDCAの最初になるので、これから、この計画がどういうふうに行きわたるか進捗を管理する体制を作っていくといいと思います。本当だとこの計画の中に一文が入っていてもいいのではないかと今更ながら思いました。実行でやっていただければいいと思います。54ページのシステムの標準化、共同化のところですけども自治体のシステムの標準化をこれから標準化してクラウド化していくのですが、これが、若干イメージが違っているのではというのがあったので、もし修正いただけるのであれば修正いただければいいと思います。具体的に言うと「本市も標準システム及び複数の自治体でクラウドによる共同利用の検討を行っていきます。」と書かれていますが、今現在の国の方針は標準システムを導入していただくということと、あとガバメントクラウドというものを国で用意してそれに自治体のみなさんのっていただくというようなことを今国会に提出している標準化法では標準システムを導入するのは義務になりますし、ガバメントクラウドを活用いただくというのは努力義務になっているので今までの自治体クラウド、共同利用というのは少しニュアンスが異なってきているのでその辺が間に合うようであれば標準システム及びガバメントクラウドの活用を検討していきますぐらいにさせていただけるといいと思いました。以上です。

(安田委員長)

前田さんありがとうございます。今言われたガバメントクラウドという言葉はもう使っているのですか。

(前田委員)

もう公開されていますのでウェブでも公表しているので大丈夫です。

(安田委員長)

わかりました。事務局いかがでしょうか。

(事務局・情報政策課長)

これは私ども記事で見ている状態で今後そうなるのかと、確定での通知という形ではなかったもので、今のところ、共同利用がガバメントクラウドになったところで近隣の市町と一緒にのるのかなということであまり気にしていなかったのですが、確かに複数市町の共同利用だとひと世代前の自治体クラウドという形になると思うのでその棲み分けがしづらいというところでせっかく前田さんのご意見なのでガバメントクラウドという言葉を使っていいのであればそれが最新だと思いますのでその形で書き直しさせていただきます。ありがとうございます。

(安田委員長)

前田さんありがとうございました。それでは林委員お願いします。

(林委員)

本当に見やすくなりました。私も他の委員が言われたようにこの計画に対してどうやっていくかが大事だと思いますし、市民の方も興味を持っていただけるようにアピールしていただけたらと思います。ひとつ申し上げると、何かアプリケーションを取り入れようとか仕組みを入れようとかするとその時はみんなそこに一直線に行くのだけでも取り入れてしまうと少しの間はいいけども1年、2年と経つ間に徐々にひいてしまうことがあります。それはやはり寂しいことだと思いますので、ぜひこれは気持ちも高く持って進めていかなければいけないと思います。あと、せっかくいいものを作ったのでこれを子どもたちに伝えていくことがすごく大事だと思います。例えば46ページはとても重要だと思うのですが、これはこれでいいのですが、今こういう課題があつてね。こういうことをやろうとしていることを伝えていく場をつくるのは大事だと思います。例えばキャリア教育とかで私も関わっているのですが、いろいろな仕事の人が関わっていて、子どもたちがそう

いう話を聞いてこういう仕事があるといいなど。それと同じように、こういうことをもう少し分かり易く説明をして、今これをみんなで考えてこういうものを作ったよと、こういうふうに未来を目指しているよと話すことで、興味を持って、こういうことをやっというかなとか、こうでなくてはいけないのだとか、では就職は瀬戸でしようかと思う子どもでてくるかも知れないので、その役割は親なのか先生なのかそこは少し分かりませんが、伝えていくということは大事だなどと思いました。

(安田委員長)

ありがとうございました。とても重要な指摘だと思います。最近子どもだからということではなくて小さい時からいろいろなことを知ってもらおうという試みというのはたくさんありまして、英語教育とかプログラムとかありますが、今のお話をうかがっていて行政というものに対して小さいうちから自分のまちの行政はこうなっているのだと分かるようなそういったような子どもに向けての情報伝達が重要だと改めて思いました。今後これができるかどうかは別にして、我々が頭の片隅に置いておいてこれをすべての年代層に分かっていたいただくためのアクティビティとして捉えて広げていくこともあっていいと思いました。

(事務局・情報政策課長)

これを読むときに大変だろうということで、概要版として見出しのポイントを集めた形でここでは何が言いたいのかということをもとめましょうとやっているのですが、自分の中では、よくある博士が子どもたちに語る口調で漫画的なものだとは分かり易いだろうとは考えましたが、この計画にはどうかと思っていました。更に子どもたちに分かるような概要版を一度考えてみます。

(安田委員長)

ぜひ、推進していく中でお考えいただければと思います。

(寺田委員)

前回から比べると本当に分かり易くなっています。特にこの第5章からは非常に分かり易いです。ただ、用語がいろいろ示されている分、多くのキーワードがでているのでデータでリンク集のようなものがあ

ると分かり易いと思います。あと、実行の部分がどうなるか、例えば 48 ページの ICT 人材の育成のところですが、「高度 ICT 人材の育成に取組、市内外の子どもたちがものづくりのまち瀬戸を訪れたい、将来瀬戸に住んでみたいと思ってもらえる仕組みを構築していきます。」とあるが、どう取組んでいくのかとか、RPA についても 41 ページで行政管理部人事課がこれだけの時間が削減できましたとあるが、では削減できた時間は何に使われるのか、RPA を利活用することで、庁内の職員がより地域みなさんに還元できる何かをできるということまで書いていただくとイメージがわかりやすいと思います。生産人口が減って高齢人口が増えてくるとあるが、高齢者を活用していけばマイナスとはならないのではないかと思います。リタイアされたみなさんが、IT のいろいろなツールを活用することで、リアルなシルバーセンターのみなさんが地域に大貢献をされているように、そのデジタル版という形で高齢者のみなさんに覚えていただければ地域で根付いているようないろいろなデータを子どもたちに引き継いでいただけることもあると思います。自治会とか公民館とかのいろいろなリンクがある中で実際やっていただいてそれを検証するというので、とにかく一回やってみるといっても必要だと感じました。

(安田委員長)

とても重要なポイントだと思います。計画書として紙媒体でつくる訳ですが、これをデジタルしておけば、それをプラットフォームにして具体的にどういう施策をしたのか、リンクをはることができると思いますので、ぜひ、これを推進していく中で進捗がデジタル上でしっかりとフォローできるといいと思います。評価していく、見ていくということが大事だと思いますので、そこをどうしていくかということぜひお進めいただければと思います。

(事務局・情報政策課長)

今後の推進については 44 ページに載せている通り「瀬戸市 ICT 活用推進協議会」で PDCA を回したいとありますので、その中で我々と委員のみなさんと意見交換してどういう KPI がいいのかとかどうい進捗の見方が効果的か意見交換をしながら進めていければと思っております。

(安田委員長)

最後ですので、その他何かありましたらお願いします。

(後藤副委員長)

こういう ICT を進める時にやはり動くのは人なので、いつも学生にも言うことですが、IT の世界の中だけで完結するのではなくて、人の思いをいかに伝えるかというような文化をきちんと創っていくことはすごく大事なことだと思います。そこをこれからのアクションのところにもいろいろなところに浸透して行っていただきたいですし、人の思いに触れた時に大きなパワーが生まれることが絶対でてくると思います。それがおそらく次の原動力になっていくこともあると思いますので、お互いの仕事に対するリスペクトもそうですし、市民のみなさんが取組んでいることもそうですし、いろいろな方々がいろいろなことで頑張っている。それをお互いにリスペクトし合えると加速度的に動いていきやすくなりますし、こういうものがあってよかったと思えるまちなっていくと思いますので、そういう文化みたいなものを情報政策課の方が率先してどんどん発信して、まずは市役所の中から広めていくことをぜひしていただけるといいと思います。

(安田委員長)

最後、後藤先生がとてもいいまとめ方をしていただきました。ありがとうございます。我々、一所懸命に作ってきましたけども、これを動かすのは人であるわけで関係するみなさんがこれをベースによりいいものに育てていただきたいと思います。

(寺田委員)

1点確認ですが、委員評価欄の個人名は入れたままにするかしないはどうなりますか。

(事務局・岡田専門員)

今は残したままにしていますが、もし個人名を外した方がいいのであれば委員からのご意見ということで外させていただきます。

(安田委員長)

昨年 3 月から毎回有意義なご意見をいただきました。本当に感謝申し上げます。これからどう育てていくかがポイントだと思いますので引

き続きましていろいろな意味でお力添えをいただくことになるかもしれませんが、その節はどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。改めまして本当にありがとうございました。事務局にお返しします。

(事務局・情報政策課長)

では、ありがとうございました。本日委員のみなさんから頂いたご意見を踏まえまして、最終の見直しをしまして予定通り3月末までには瀬戸市ICT戦略推進プラン・官民データ活用推進計画の策定公表という形で進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。今日、部長が来ておりますので、1年通してみなさんにいろいろお世話になりましたのでご挨拶をさせていただきます。

(事務局・経営戦略部長)

本当にありがとうございました。先程、議論の中で安田先生から我々が見守れるようなという温かいお言葉を拝聴しました。今後、この計画を我々推進していきますが、その都度また貴重なご意見、ご指導をいただければ有難いと思ひます。厚かましいようですがそのことをお願ひしましてお礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(事務局・情報政策課長)

大変お世話になりましたどうもありがとうございました

以上